
雪降りしきる街

早乙女伊織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪降りしきる街

【Nコード】

N7727Z

【作者名】

早乙女伊織

【あらすじ】

クリスマスの日、彼女はまた思い出す。

(前書き)

クリスマスということ、突発的に詩が思い浮かびました。

君が居なくなってから、二度目のこの季節。
空は灰色に染められて、上から白い粉が散る。

あの時泣いていた、私はもう大きくなって。

もう泣き虫なんて言わせないと、心に誓ったはずだった。

それでも、思い出せる。君と歩いた最後の道は、
白い粉に染められて、光り輝いてた。

「ありがとう、さよなら、愛してる」と、何度も言葉を交わしたの
に。

消えていたはず君の記憶は、ずっと私の心に残っていたんだ。

家への帰り道、駅までの道、どれも君と歩いた道は

春、夏、秋、冬、巡る季節、それぞれの思い出が詰まってるよ。

さよならの後は、いつも哀しくて、涙堪えて俯いた。

それを見た君は、いつだって撫でて、優しい笑顔くれたんだ。

「バイバイ、またね、愛してる」と、毎日重ねた言の葉は、最後に
雪に溶けていき、

なんにもなかったみたいに、消えてった。

あの日から毎日、泣いてた私だったけど。

もう泣かないよ。ホワイトクリスマス、君に逢えたから。

「久しぶり、元気してた？」と聞く君に、
「もちろん、元気だよ」と返して、涙堪えて抱き着いた。とたんに
涙溢れてく。
ずっとずっと待ってたよ、会いたかった。世界で一番愛してる。
雪の降るこの街で、二人は出逢い、イルミネーションの光に、消え
ていった。

愛してる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7727z/>

雪降りしきる街

2011年12月25日02時49分発行